

RESAS



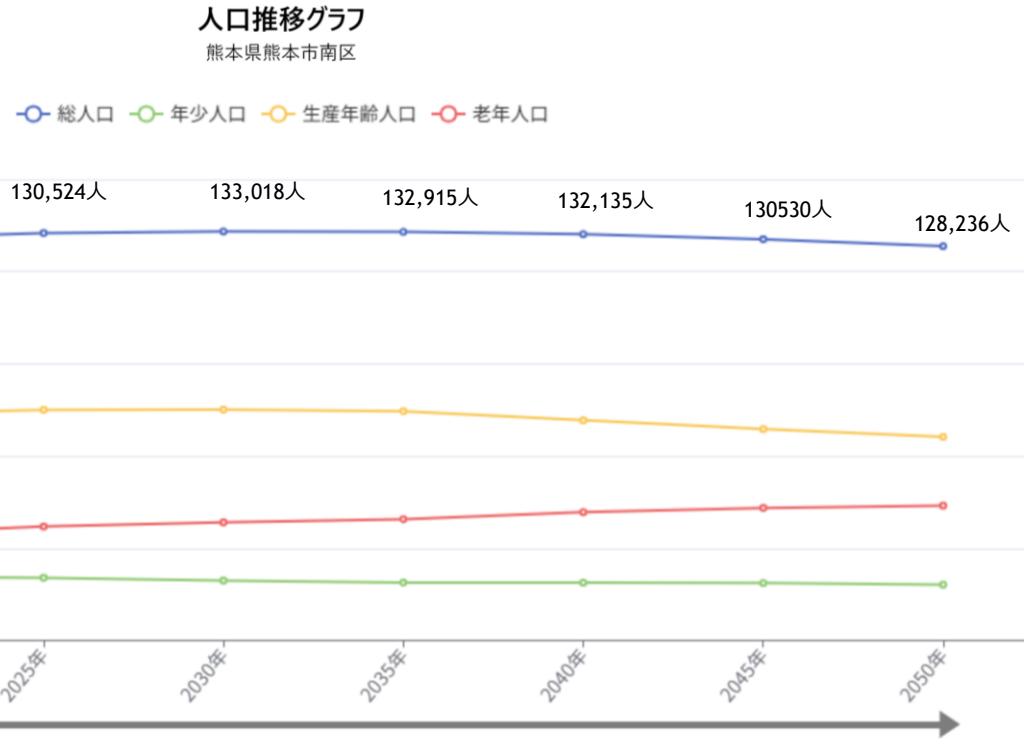
RESAS 地域経済分析システム

The screenshot displays the RESAS system interface. On the left, the homepage features a large title '仮説を根拠へ' (Based on Hypotheses) and a brief description: 'RESASは、地域経済に関するビッグデータを地図上やグラフで見える化できる政府のシステムです。' Below this are several analysis categories represented by icons: Marketing (+), Tourism (+), Population (+), Industrial Structure (+), Regional Economic Circulation (+), Forestry, Agriculture, Fisheries (+), and Health Care (+). On the right, there are two views of the system: a desktop view showing a map of a specific area with various data overlays and a graph of population movement over time, and a mobile phone view showing a similar map and a line graph of population data.

RESAS（リーサス : Regional Economy and Society Analyzing System／地域経済分析システム）**は、日本政府（経済産業省・内閣官房など）が提供する、地域経済や産業構造、人口動態などを可視化・分析できるウェブシステムです。地方創生を支援するために開発され、自治体職員や研究者、企業、一般市民も無料で利用できます。データに基づいた地域の状況を把握分析できるので参考にしてみてください

人口 推移

- ▶ 熊本市南区の2020年の人口は130,829人、5年前（2015年）の127,769人と比較すると102.3%増加しています。
- ▶ 将来人口の推移を年齢別にみると、年少人口は緩やかな減少傾向が続きます。
- ▶ 生産年齢人口も2025年には一時緩やかに増加に上向くが、再び緩やかに減少に反転します。
- ▶ 老年人口は2050年までに増加基調が続きます
- ▶ 総合的に少子高齢化が一層進んでいきますが、人口の減少は緩やかに進みます。



人口ピラミッド

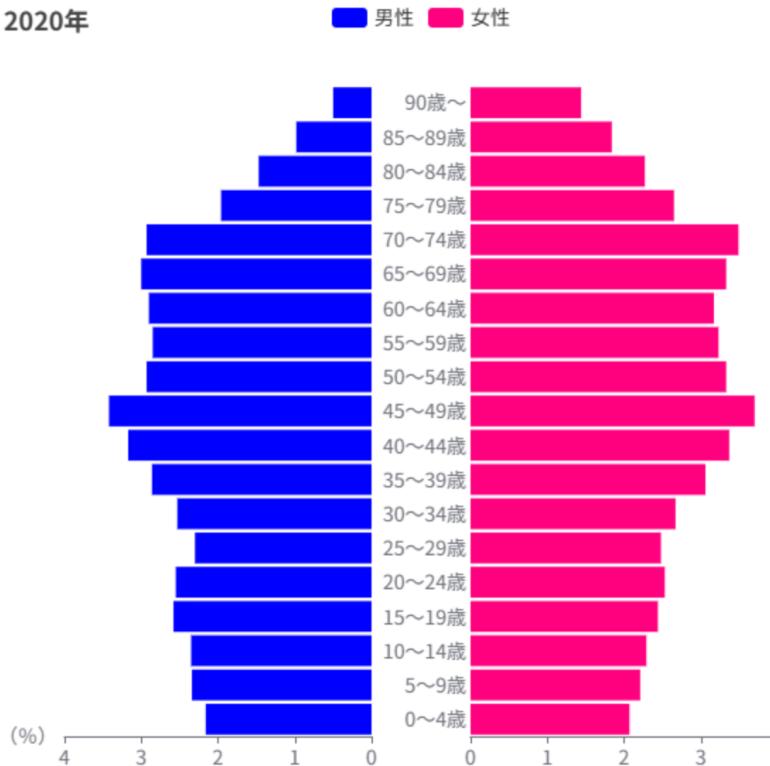
高齢の年齢層がボリュームアップし、生産年齢人口が縮小することが予想されます。このことにより**生産力の不足が予測**されます。またボリュームゾーン生産年齢層より**老年層に変化することに応じた消費行動の変化**も予測されます。

- ▶ 2020年と将来（2050年）の年齢別的人口構成を示したグラフです。
- ▶ 老年人口は 2020年の 25.86% から 将来（2050年）は **35.72%**と増加
- ▶ 生産年齢人口は 2020年の 58.09% から 将来（2050年）は **52.55%**に減少
- ▶ 年少人口は 2020年の 13.43% から 将来（2050年）は **11.74%**に減少

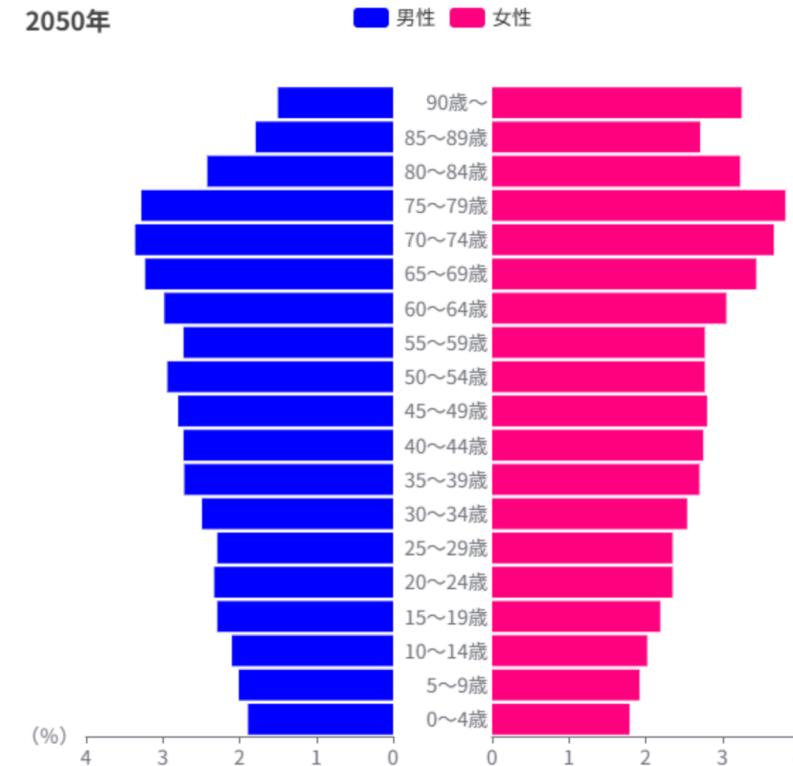
人口ピラミッド

熊本県熊本市

2020年



2050年



老年人口（65歳以上）：191,066人（25.86%）

生産年齢人口（15歳～64歳）：429,187人（58.09%）

年少人口（0歳～14歳）：99,199人（13.43%）

老年人口（65歳以上）：231,515人（35.72%）

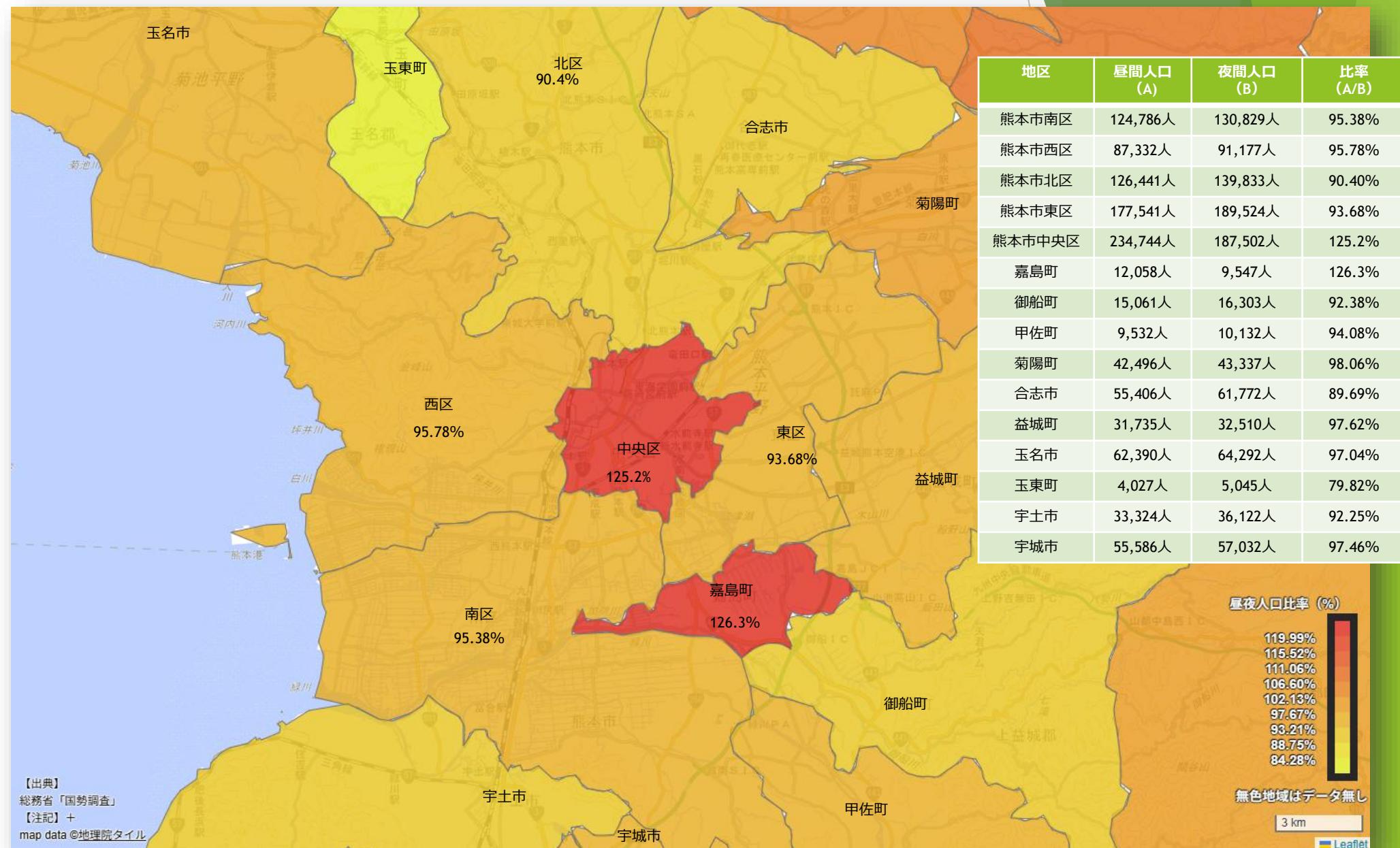
生産年齢人口（15歳～64歳）：340,615人（52.55%）

年少人口（0歳～14歳）：76,066人（11.74%）

昼夜人口比率

- ▶ 通勤や通学による日常的な自治体（熊本市及び熊本市に近接する自治体）間の移動状況を昼夜間人口比率等（昼間人口、夜間人口）を表示。

- ▶ 昼夜人口比率は熊本市中央区（125.2%）・嘉島町（126.3%）と100%以上となり近隣周辺地域よりの昼間の人口流入があることがうかがえる。
- ▶ 熊本市中央区は昼間人口が237,744人と他地域よりも多く昼間人口の一極集中していることがうかがえる。
- ▶ 昼夜人口比率が100%以下の地域（昼間人口より夜間人口が多い地域）について、昼間人口の多い熊本市中央区・嘉島町から夜間人口の多い地区にむけて人口移動がされている可能性が高いと判断される。

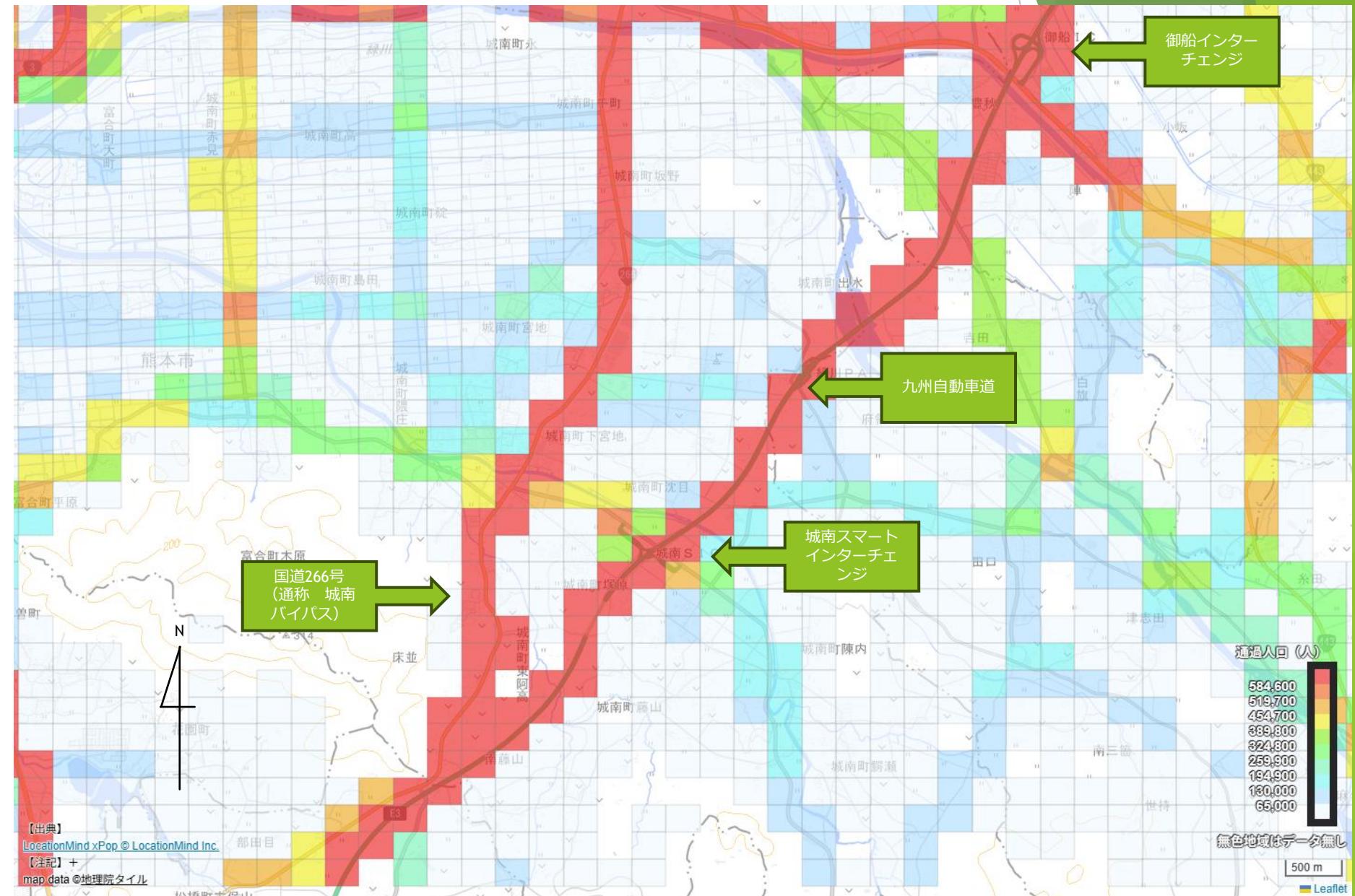


データ参照年 2020年

通過人口マップ

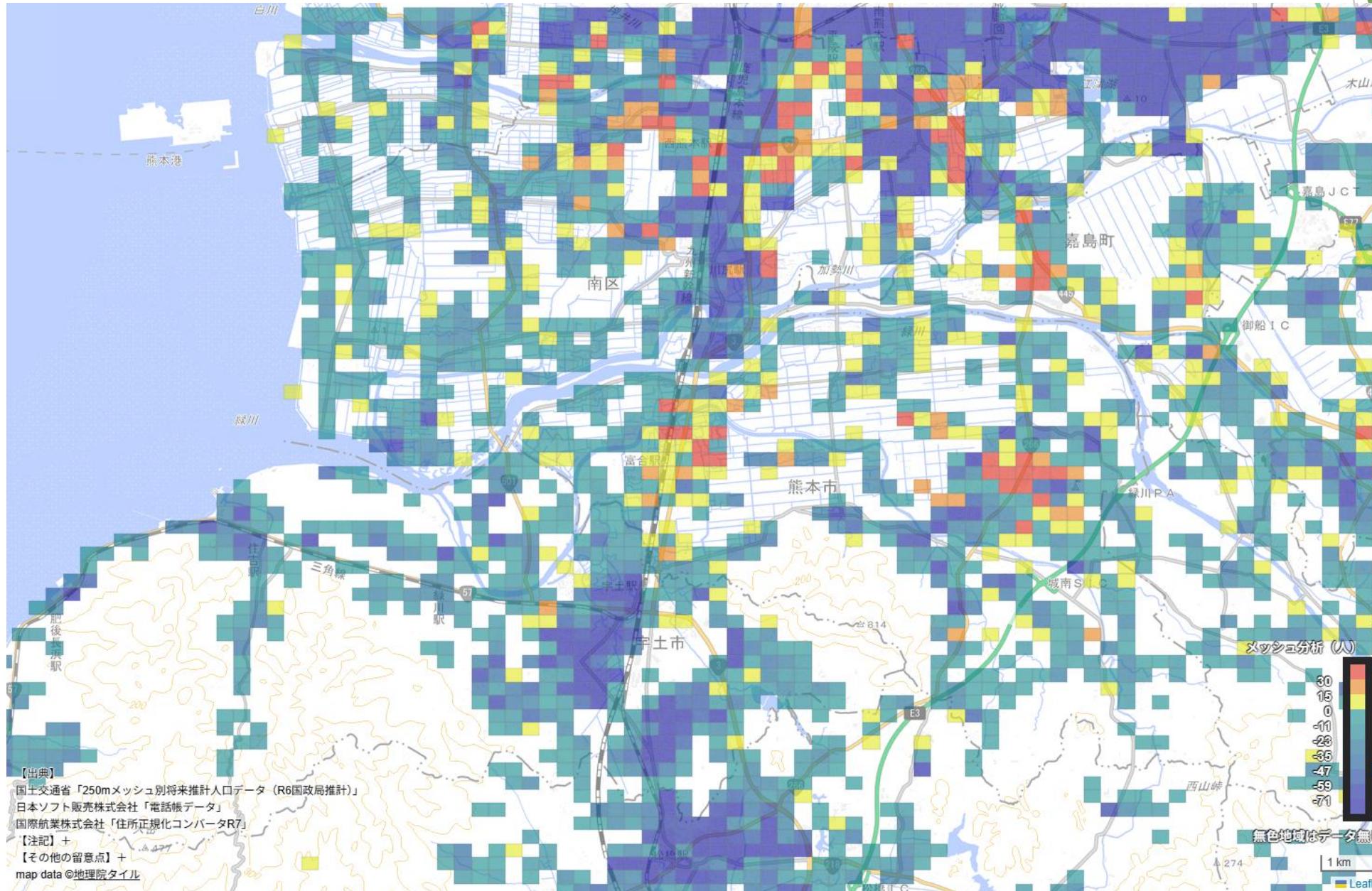
▶ 携帯電話のアプリ利用者の位置情報を基にエリア内を通りすぎた人口を表示

- ▶ 熊本市南区城南町周辺の通過人口は右記マップのとおりであり、南北に貫く国道266号の通過人口が多い。
- ▶ また九州自動車道及び、御船インター、城南スマートインター付近での通過人口が多い。
- ▶ 国道266号・九州自動車道路2線を東西につなぐ道路も通過人口が多い。



将来人口推計

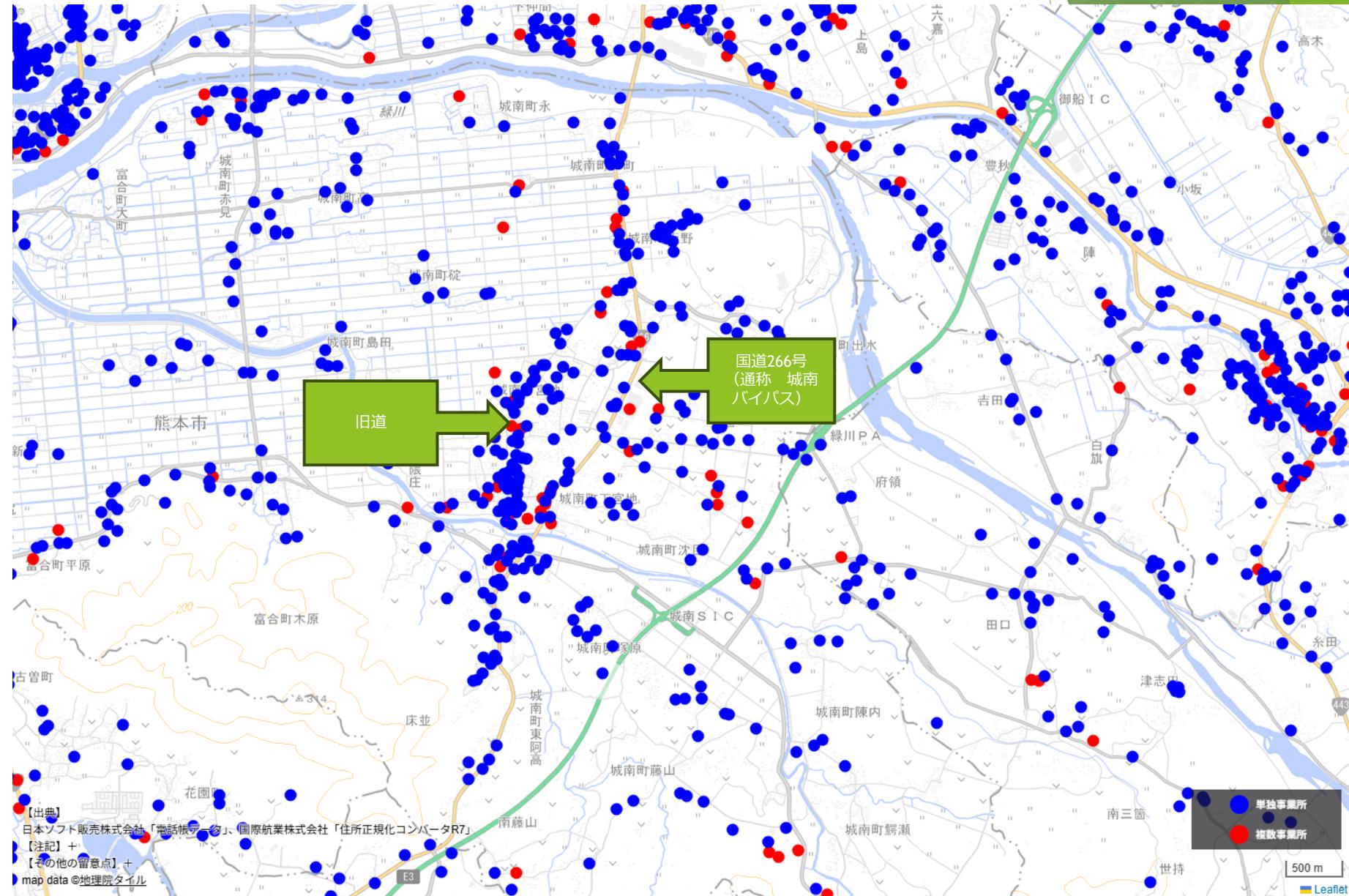
▶ 将来の人口推移や自然増減と社会増減が将来の人口に及ぼす影響を表示します。



事業所立地

- ▶ 電話帳に登録されている事業者を地図上に表示（電話帳に登録されていない事業者は表示はされていません。）

- ▶ 熊本市南区城南町周辺の事業所の所在地であり、幹線道路沿いに事業所集積が見られる。
- ▶ 特徴的なこととしては国道266号（現城南バイパス）沿い以外に旧道沿いに事業所の集積が多くみられる。



観光地マップ

- ▶ 熊本市南区城南町近辺の観光地
- ▶ 雁回山周辺に多くの史跡があり、特に自然資源遺産や貝塚が多い。



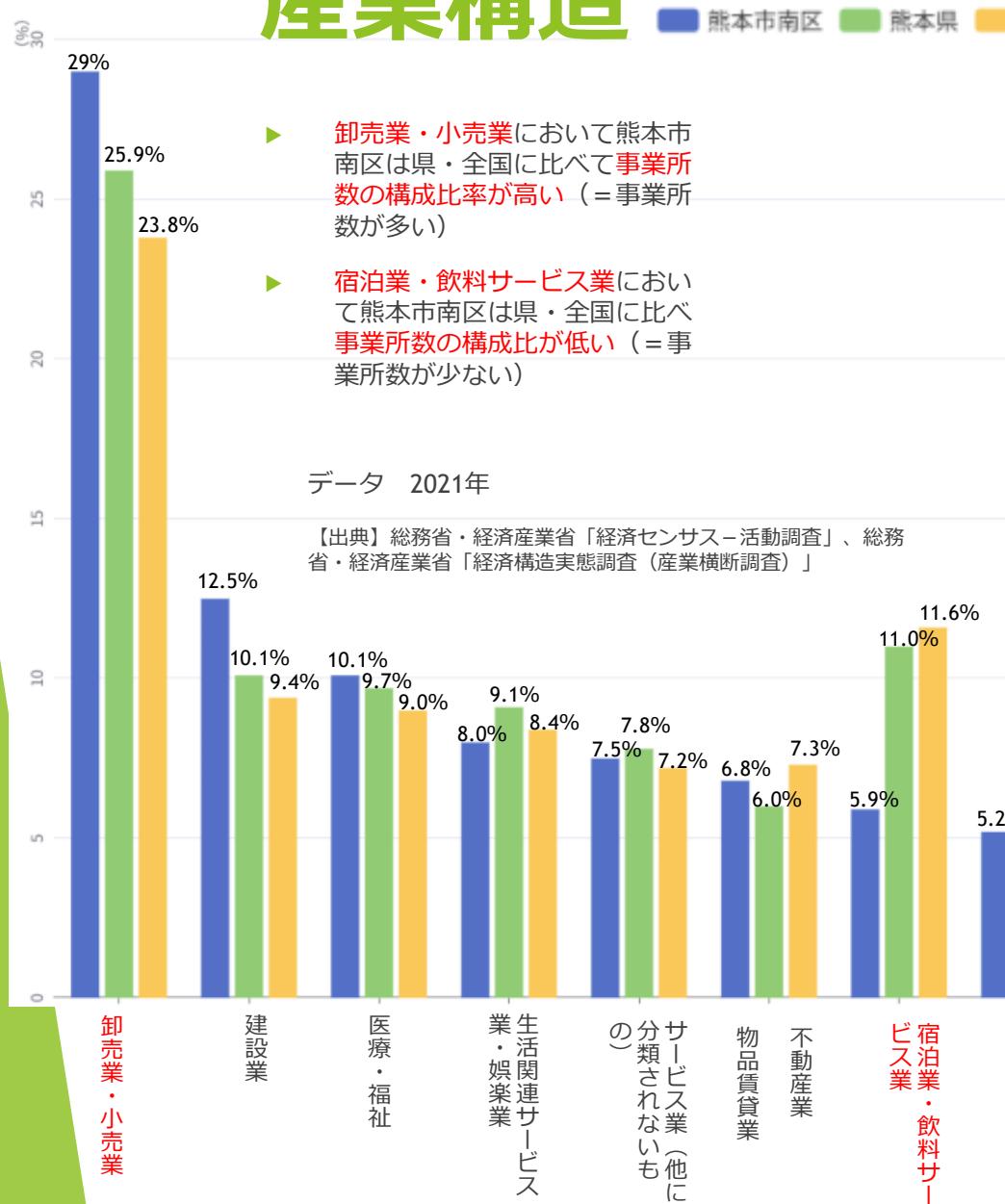
産業構造

■ 熊本市南区 ■ 熊本県 ■ 全国

- ▶ 卸売業・小売業において熊本市南区は県・全国に比べて事業所数の構成比率が高い (=事業所数が多い)
- ▶ 宿泊業・飲料サービス業において熊本市南区は県・全国に比べ事業所数の構成比率が低い (=事業所数が少ない)

データ 2021年

【出典】総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」、総務省・経済産業省「経済構造実態調査（産業横断調査）」



業種	熊本市南区 (A)	構成比 (%)	熊本県 (B)	構成比 (%)	全国 (C)	構成比 (%)	(A-B)	(A-C)
卸売業・小売業	1,375	29.0%	18,834	25.9%	1,228,920	23.8%	3.1%	5.1%
建設業	594	12.5%	7,351	10.1%	485,135	9.4%	2.4%	3.1%
医療・福祉	477	10.1%	7,063	9.7%	462,531	9.0%	0.4%	1.1%
生活関連サービス業・娯楽業	378	8.0%	6,590	9.1%	434,209	8.4%	-1.1%	-0.4%
サービス業（他に分類されないもの）	354	7.5%	5,639	7.8%	369,212	7.2%	-0.3%	0.3%
不動産業・物品賃貸業	320	6.8%	4,337	6.0%	374,456	7.3%	0.8%	-0.5%
宿泊業・飲料サービス業	281	5.9%	8,033	11.0%	599,058	11.6%	-5.1%	-5.7%
製造業	248	5.2%	3,978	5.5%	412,617	8.0%	-0.3%	-2.8%
学術研究・専門・技術サービス業	228	4.8%	3,345	4.6%	252,340	4.9%	0.2%	-0.1%
教育・学習支援業	149	3.1%	2,001	2.8%	163,357	3.2%	0.3%	-0.1%
運輸業・郵便業	134	2.8%	1,609	2.2%	128,224	2.5%	0.6%	0.3%
金融業・保険業	61	1.3%	1,198	1.6%	83,352	1.6%	-0.3%	0.3%
複合サービス業	40	0.8%	736	1.0%	32,131	0.6%	-0.2%	0.2%
農業・林業	39	0.8%	1,118	1.5%	38,642	0.7%	-0.7%	0.1%
情報通信業	35	0.7%	572	0.8%	76,559	1.5%	-0.1%	-0.8%
電気・ガス・熱供給・水道業	18	0.4%	199	0.3%	9,139	0.2%	0.1%	0.2%
漁業	5	0.1%	112	0.2%	3,800	0.1%	-0.1%	0.0%
鉱業・採石業・砂利採取業	3	0.1%	29	0.05%	1,865	0.05%	0.05%	0.05%

地域経済循環分析

2018年
指定地域:熊本県熊本市

地域経済循環率

84.4%

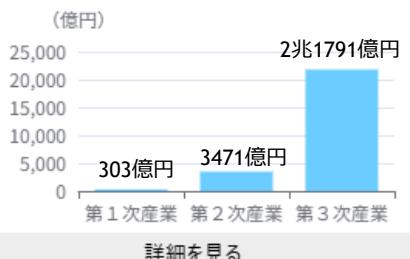
所得への分配
25,565

分配（所得）



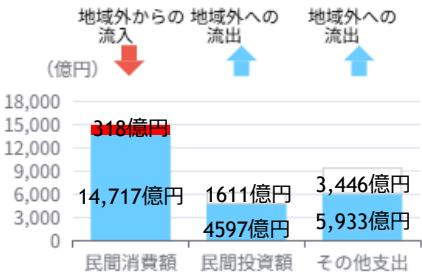
所得からの支出
30,304

生産（付加価値額）



支出による
生産への還流
25,565

支出



地区 (市近接地区)	所得への分配	所得からの支出	支出による生産 への還流	地域経済 循環率
熊本市	2兆5,565億円	3兆304億円	2兆5,565億円	84.4%
嘉島町	539億円	464億円	539億円	116.2%
御船町	524億円	885億円	524億円	59.2%
甲佐町	369億円	558億円	369億円	66.1%
菊陽町	1,784億円	1,763億円	1,784億円	101.2%
合志市	2,692億円	2,333億円	2,692億円	115.4%
益城町	1,620億円	1,959億円	1,620億円	82.7%
玉名市	1,734億円	2,511億円	1,734億円	69.0%
玉東町	102億円	212億円	102億円	48.1%
宇土市	1,097億円	1,416億円	1,097億円	77.5%
宇城市	1,933億円	2,530億円	1,933億円	76.4%
熊本県	6兆511億円	7兆4336億円	6兆511億円	81.4%

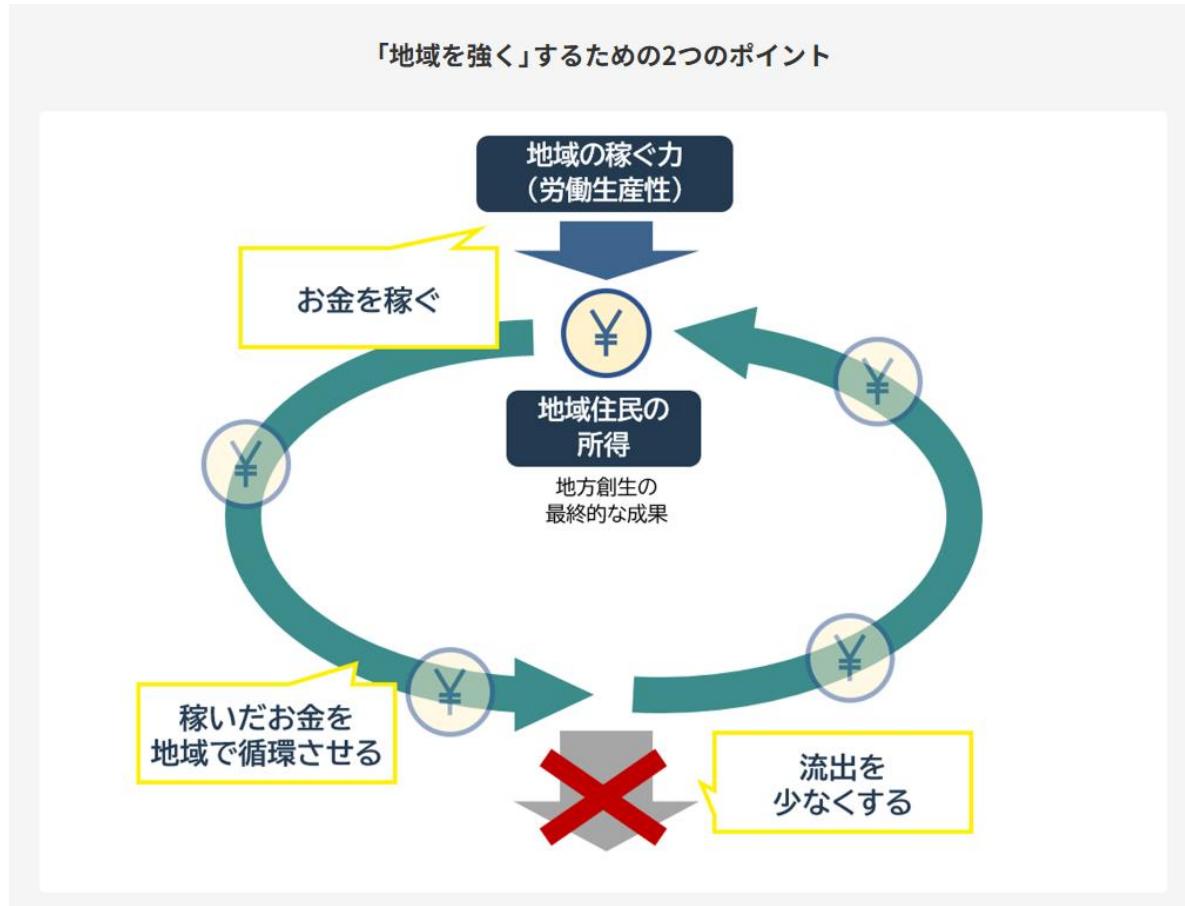
「地域経済循環率」とは、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している。（値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。）

「雇用者所得」とは、主に労働者が労働の対価として得る賃金や給料等により構成される。

「その他所得」は、財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外の所得により構成される。

「その他支出」は、「政府支出」+「地域内産業の移輸出-移輸入」により構成される。例えば、移輸入が移輸出を大きく上回り、その差が政府支出額を上回る場合（域外からの財・サービスの購入を通じた所得流出額が政府支出額よりも大きい場合）は、「その他支出」の金額がマイナスとなる。

地域経済循環分析



▶ POINT 1

地域でお金を循環させること

お金の地域の外への流出を抑制し、
地域内で循環する仕組みを作ること

▶ POINT 2

地域でお金を稼ぐ力を強くすること

豊かな経済循環構造のために、
地域内で効果的に稼ぐ産業を育てること